

(公財)川崎市
国際交流協会の

講師 INSTRUCTOR 紹介

初中級の中国語・
やさしい日本語
研修会

こう いけん
高 偉建さん



「寒いですね」と「ご飯を食べましたか」

留学生として初めて来日したとき、冬にはよく「寒いですね」と声をかけられましたが、寒いと感じないときは「いいえ、寒くありません」と返していました。逆に先に声をかける場合は、「ご飯を食べましたか」といつも言っていました。ある日、「高さんはご飯に誘ってくれるかもしれない」と、同級生がうわさしていると人づてに聞いて、びっくりしました。挨拶のつもりだったのに、誤解を起こしてしまったようです。ひょっとして「寒いですね」も、日本人にとってはただの挨拶かもしれないと、その時ハッと気がつきました。日本語の「寒いですね」と中国語の「ご飯を食べましたか」は、この点で共通しているようです。もっと早く習っていたら、と今でも悔しい思いをしています。

このような反省から、私の中国語教室では、ことばの意味を教えるだけでなく、その裏に隠されている習慣や考え方についても注目してもらうようにしています。たとえば、数字を教えるときは、お祝い金をあげる場合、奇数が偶数か、八はどうしていいのかという一般的な話題から、なぜ2012年12月12日に結婚した人が記録的に多かったのかといった時事ネタまで、広範囲にわたってクイズ形式で取り上げています。

みなさんも、中国語のことばと意味と文化と一緒に学びませんか？

W inter Gathering 「みんなで創る多文化の集い」

多文化
交差点

12
[たぶんかこうさてん]

当センター初めての試み。12月8日(土)、「ウィンターギャザリング」のネーミングに魅せられた老若男女が、大勢集まりました。

オープニングは、「ひとみ座乙女文楽教室」を修了した子どもたちが演じる伝統芸能「乙女文楽」でした。生き生きとお芝居を演じる人形を操っていたのは小・中学生。子どもたちと同じくらいの背丈の文楽人形を、太鼓や鈴の音に合わせて、表情豊かに操っていました。また、観客の中からインド人女性が人形操作体験をする場面もあり、温かい拍手につつまれました。

各会場で同時進行のワークショップも多様で心躍るものでした。参加者は、バンブーダンス(フィリピン)やフラダン



子どもたちによる
乙女文楽の「二人三番叟」

ス(米・ハワイ)で体を動かしたり、「切り絵」(中国)や「絵手紙」(日本)の制作を体験したり、別会場ではじっくり「影絵」(日本)を見ながら音楽とお話も楽しみました。それぞれの国のすばらしい文化に触れ、豊かな気分になりました。

最後は交流会。「世界のお茶めぐり」とミニ・コンサートでは、5カ国(インド、韓国、中国、ベトナム、モンゴル)の珍しいお茶やコーヒーをいただきながら、劇団四季「ライオンキング」で活躍された友石竜也さんの声量あふれる歌声や、アントニオ・古賀さんのリズムカルなギター演奏にリードされ、幼児からお年寄りまでさまざまな国籍の参加者がともに賑やかに楽しいひと時を過ごしました。

(編集ボランティア 福地 直子)

「おと絵がたり」による
作品の上演



▲アントニオ・古賀さんの
ミニ・コンサート



◀フラダンスの
ワークショップ